

# てんてい新聞

12.6 No180  
発行所 市岡日次  
0883-88-5292

## 「独りよめ」がら「おれさん令子」

新緑が本当に美しい季節。この景色は本当に  
に祖谷の里です。ただし、人が作り出した里では  
ない事は言うまでもありません。

気遣いや遅れをほめてしを身象条件のもと草木  
が織りなす景色です。入る景色が未来永  
却繰り返すことがあれば素晴らしいことです。

しかし、よも悪くも人がどう生まるか。この  
自然環境が変化していくのは言うまでもありません。  
農が壊れて、山の木草草ばかりでなく、農作物への  
影響が多くなるというの。人の生活が変化し、農が  
壊れていく条件が良くも悪くもなにかうに他はなりません。

人が自分達の生きた道を変えず、歴史・緒を犯  
人にしてはよくはないかというの。

同様のように入として、地域入として、地域再生に  
があるのではいざいざか。平成の大合併で、東  
祖谷山村は「村」を捨て、東祖谷」という名  
称とつきました。他の町村は、すべて旧町村名のま  
まです。先見の目があるのが事情なのか。

しかし、「村」の名前をなくして「山」的のものに  
今に多くかまわれます。様々な事が、「血縁」を守  
りついでら山で「沈黙は金」。そこで、自分だけが紅  
車か出果れば、とかの自分だけの「独りよめ」のま  
まが、足を引っぱつていきます。

また、祖谷の地域おこしの中心は、祖谷に住  
んでいられる方が中心ですか。その主役は自分達は  
祖谷がどうあるべきかというの。

今に、他人まかせ。行政まか  
せの体質ばかりが目立ちま  
す。  
自分達の意向、考えがな  
いから、名の知れた人が来  
て、お金を引っぱつてくれ  
ると人の言うままにひ  
つこうはいません。

だから、事業がストップで  
こも。その人が悪くなり、自  
己のくり返し。

この責任はありません。  
活彩祖谷村でも、祖谷の原風景としての茅葺き屋  
根の復元と活動のストップとついでに、  
茅葺き屋、茅葺き屋にひりました。それは、特  
三棟もが茅葺き屋にひりました。それは、特  
はありますが、その茅葺き屋の家が地域再生、活性化  
に、祖谷の中心がかりがあるかと聞けば、少々疑問に  
感じざるを得ません。

また、今年、釣井の「いおれ」アトラスカーが草  
まかす。茅葺き屋と、まもなくオーパーンするでしよう。  
しかし、仮に観光目的とするならば、まもなく、平家藩人  
伝説の「おれ」の茅葺き屋をよそに、東祖谷ま  
のが、利にかつているといふことだ。

## ガガし作品展 6.27

名頭地区のかかし作りの中心にな  
る綾野です。毎月、綾野で市内にお  
き、かかし作りを講習し、おめでたいま  
まに、綾野ついでこの作品展が催され  
ます。作り手の顔に似るといふ言  
語のかかし。

どんなことが出来たかというのか、ど  
んな顔か、市岡の町の人々の作風はど  
のかと見に行きませんか。

平成にのびた新築した折瀬小学校が  
どうな校舎になつてしまつた様子は  
本当に仕方のない事なんだか。  
この先、新築した東祖谷中蔵校、小蔵  
は、どのまもなく建て直さるの  
朝の新聞に「住む人に愛される地名は、  
住む人の情を、まよかにする」といふあま  
の言葉がりました。そこ、祖谷はど  
りか。

また、自分の暮らすところから、  
足を知る、と、かかしが。自分た  
で、自分たらの暮らしを、つ  
自分の精神が、培われる。

「独りよめ」から「おれさん令子」へと価値観  
を東渡させる必要がある。と、ある地  
再生NPO関係の言葉が、自身にくみま  
自分に火の粉が振りかざせば、大々  
をあげたり、畑がおさまるのを待つたり、  
他人の事を知らず、隣りの大型油  
を、おれさん令子、我が地区に建  
おれさん令子、仕事が増えるか、  
おれさん令子、我が地区に建

